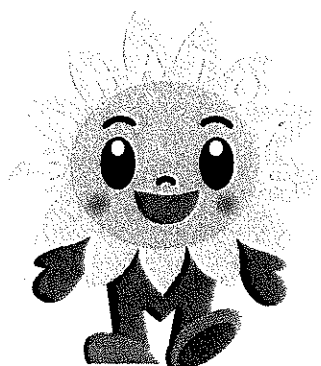


大阪市港区 まちづくりビジョン (案)



**いちばん住みたいまち、
住んで誇りに思えるまち 港区**

平成28年6月
大阪市港区役所

【目 次】

第1章	区の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2章	区の特性と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	1 少子高齢化と人口の減少傾向	
	2 地域コミュニティの活性化	
	3 まちの安全・安心の向上	
	4 まちのにぎわいづくり	
第3章	区の将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
第4章	まちづくりの方向性・・・・・・・・・・・・・・・・	11
	1 区民主体のまちづくり	
	2 安全・安心・快適なまちづくり	
	3 健やかにいきいきと暮らせるまちづくり	
	4 「子どもの学び」と「子育て世代」を応援するまち づくり	
	5 訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり	
第5章	区民の意見を反映した区政運営・・・・・・・・	35

はじめに

平成24年8月から区役所がまちづくりを総合的に担うという新しい市政運営が本格的にスタートしました。港区では、平成25年3月にめざす5年後の姿（将来像）とその実現に向けた平成27年度末までのまちづくりの方向性を示す「港区将来ビジョン」を策定し、港区にふさわしい区民主体のまちづくりに取り組んでまいりました。

この「港区将来ビジョン」については、その進捗を踏まえて、今般、平成31年度末までのまちづくりの方向性を示す「港区まちづくりビジョン」として改定するとともに、ここに示す「区民主体のまちづくり」、「安全・安心・快適なまちづくり」、「健やかにいきいきと暮らせるまちづくり」、「『子どもの学び』と『子育て世代』を応援するまちづくり」、「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」の5つの施策を柱として今後の区政を積極的に推進してまいります。

今後、本格化する少子・高齢化社会の中で、子育て支援や高齢者の見守りなど身近な生活課題の解決に住民どうしが協力して取り組むためには、「つながり」や「きずな」による更に豊かな地域コミュニティが必要です。

そのためにも、歴史が育んだ「区民のつながりの強さ」という港区の「強み」を活かし、区政会議など区民の意見を反映する区政運営を横糸として、各小学校区の「地域活動協議会」を中心とした自律的な地域活動を縦糸として、横糸と縦糸が交わる強いネットワークで、引き続き港区にふさわしい安全・安心のまちづくりを進めます。

また、弁天町駅前土地地区画整理記念事業として、現在の区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザを廃止し、平成33年を目途に港図書館とともに一体的に再構築する（仮称）交流会館については、幅広い世代が出会い、活動し、交流が広がる「起点」となることで、港区に更に豊かなコミュニティを醸成し、将来にわたって活力とうるおいのあるまちづくりに貢献する施設となるよう、整備を進めます。

築港・天保山や大阪市中央体育館、八幡屋公園など、このまちが持つ多彩な文化的・歴史的資源や都市としてのランドマークなど、港区の「強み」を活かしたまちづくりを進め、まち魅力の創造や発信とともに、子育て支援や子どもの学ぶ力、生きる力の育成に重点を置いた取組を強化します。

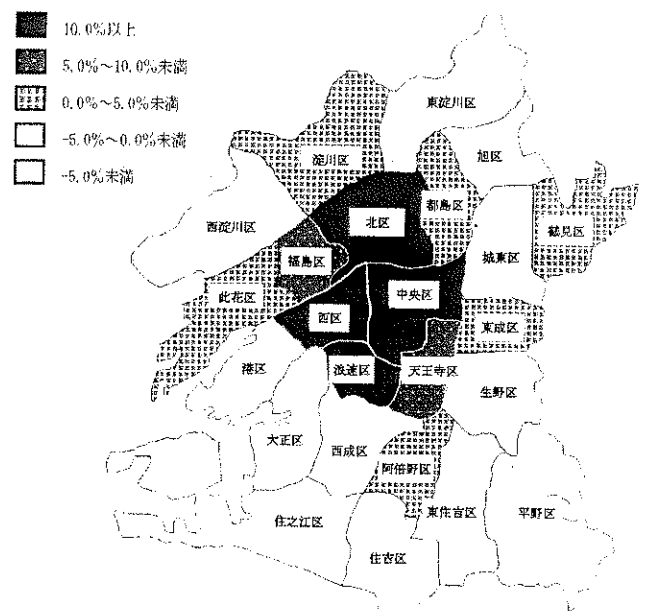
この「港区まちづくりビジョン」を今後のまちづくりの方向性として区民の皆さんと共有し、「いちばん住みたいまち、住んで誇りに思えるまち 港区」を全力でめざしてまいります。

大阪市港区長 田 端 尚 伸

第1章 区の概況

- ・港区は、大阪市の西側に位置し、三方を海と川で囲まれています。淀川（現在の安治川）の下流に位置し、川の浚渫（しゅんせつ）と戦い、江戸時代の大規模な新田開発によってつくられたまちで、開発を行った市岡、田中、八幡屋、福崎といった町人の名前が、今も港区の地名に残っています。
- ・明治時代の後期以降、日本屈指の近代港・大阪港を擁する海の玄関口として大きく発展し、特に築港は、大正時代には「東洋のマンチェスター」と言われた大阪の玄関口として繁栄しました。
- ・港区は、大正14年の誕生時には人口が約28万人、現在と同じ区域となった昭和18年には約26万人と、戦前は大阪市で最も多い人口を誇りました。しかし、わが国屈指の貨物港であり軍事上の重要拠点でもあった大阪港を擁することで、戦争で徹底的に攻撃目標とされ、昭和20年の大阪大空襲では区域のほとんどが焼け野原となり、その直後には枕崎台風による高潮に見舞われ、人口が1万人を下回るという壊滅的な打撃を受けました。
- ・戦後、「大阪市の復興は港の復興から」をスローガンに、大阪市は大阪港の復興に膨大な投資を行うとともに、港区においては高潮への抜本的な対策として、区内のほぼ全域に2mの盛土を施す、世界でも類のない大規模な「港地区復興土地区画整理事業」が45年もの年月をかけて行われました。その結果、港区は、平坦で街区がわかりやすく、道路が広く公園も多い住みやすいまちに生まれ変わりました。
- ・現在の港区は、東部の弁天町は JR 大阪環状線と地下鉄中央線が結節するターミナルであるとともに、中央大通、阪神高速大阪港線が東西に、国道43号、阪神高速西大阪線が南北に交差する交通要衝の地で、文化、商業などの機能が集積しています。中央部は、八幡屋公園に加えて国際競技大会の開催が可能な大阪市中央体育館や大阪プールが整備され、世界レベルのスポーツを身近で楽しむことができます。また、西部の築港・天保山エリアは、豊かな歴史に育まれた多彩な文化・観光資源に恵まれるとともに、年間200万人以上が訪れる世界最大級の水族館「海遊館」や、世界第一級のクルーズ客船の来航など、大阪を代表する集客、観光拠点としての展開が期待されています。
- ・現在の港区の面積は7.9km²（24区中15番目）、人口は82,063人（同18番目、平成27年国勢調査速報値）となっています。
- ・平成27年国勢調査速報値では、国の人口は平成22年の前回調査から97万7千人（0.7%）減少し、大正9年の調査開始後、初めての減少となりました。

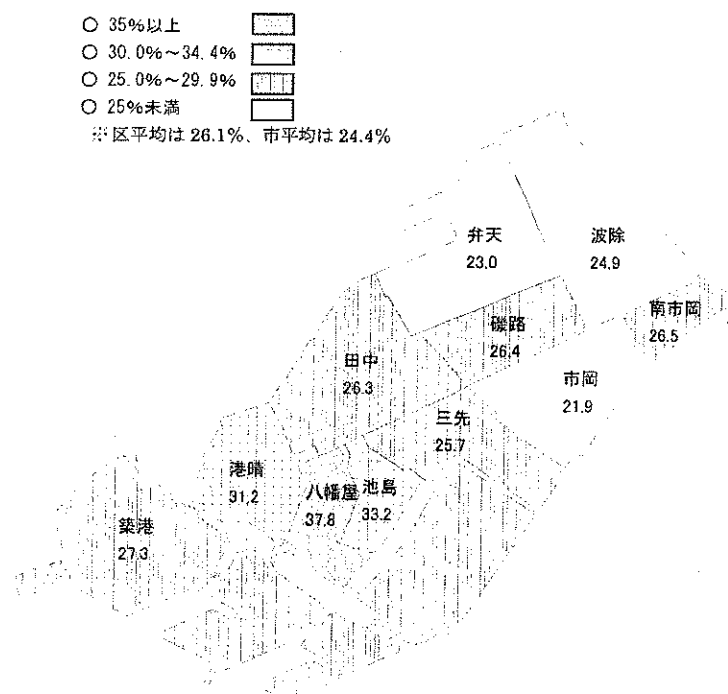
区別人口増減率（平成22年と平成27年を比較）



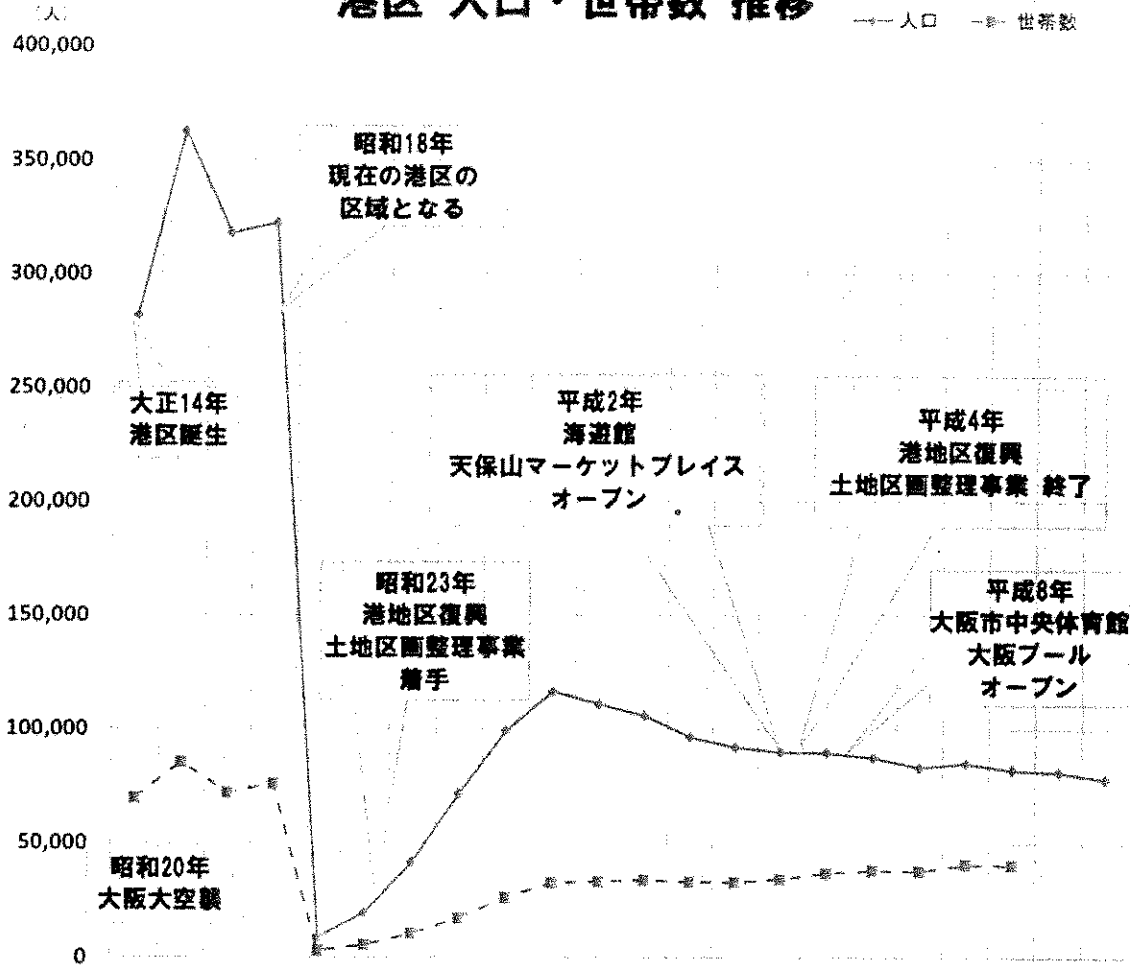
また、大阪府の人口も、前回調査から2万6千人（0.3%）減少し、戦争の影響で大幅な減少となった昭和20年を除いては初めて減少となりました。

- ・大阪市の人口は、前回調査から2万6千人（1.0%）増加し、平成17年以降増加が続いていますが、増加している区は市内中心部に集中し、周辺区は減少しています。
- ・港区の人口は、前回調査から2,884人（3.4%）減少し、24区で3番目の大きな減少率となっています。また、平成26年の港区の高齢化率は26.4%（大阪市推計）で、大阪市全体（24.9%）と比べて高齢化が進んでおり、特に市営住宅の多い区内中央部では高齢化が大きく進み、すでに30%を超えている地域もあります。一方で、平成26年の港区の15歳未満の人口は、9,107人（大阪市推計）で、平成22年より860人（8.6%）減少しています。
- ・人口減少と少子高齢化が急速に進む中、地域活動の担い手の裾野を広げて、更に豊かなコミュニティを促進して、高齢者がいきいきと住みなれた地域で安心して暮らすことのできる環境づくりや、子どもの学びと子育て世代を応援するまちづくりを進めることが極めて重要です。
- ・なお、平成27年1月に、大阪市として「弁天町駅前土地地区画整理記念事業計画」の実施を決定し、現在の「港区民センター」、「港区老人福祉センター」、「港区子ども・子育てプラザ」を「港図書館」とともに平成33年度の完成をめざして、一体的に（仮称）交流会館として再構築することとしました。
- ・この（仮称）交流会館については、幅広い世代が出会い、活動し、その交流が広がる「起点」としての機能を果たすことで、港区に更に豊かなコミュニティを醸成し、将来にわたって活力とうるおいのあるまちづくりに貢献する施設となるよう、区民の皆さんの意見を踏まえながら整備を進めます。

【人口に占める 65 歳以上人口】（平成 27 年 3 月末 住民基本台帳）



港区 人口・世帯数 推移



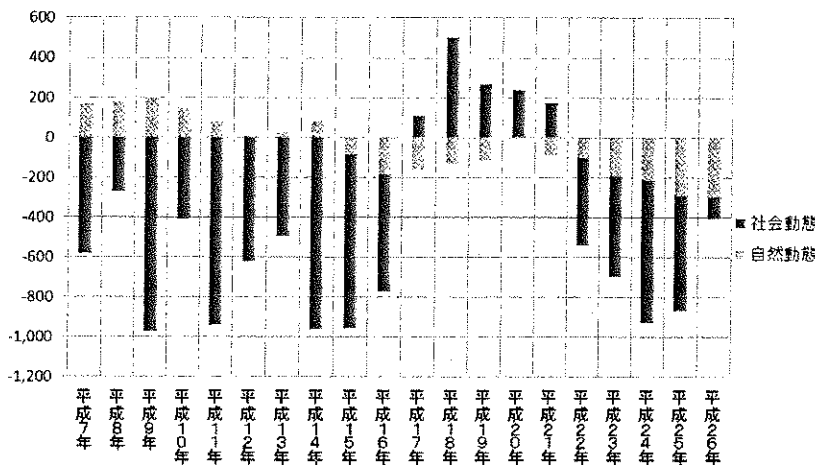
T14 S5 S10 S15 S20 S22 S25 S30 S35 S40 S45 S50 S55 S60 H2 H7 H12 H17 H22 H27 H32 H37

資料：総務省「国勢調査」（昭和20年は、大阪市統計書に記載されている人口を利用、平成27年は国勢調査速報値を利用）
平成32年以降は国立社会保障・人口問題研究所（平成25年3月）推計資料

人口	S5	S15	S22	S30	S40	S50	S60	H7	H17	H27	H37
	362,582	322,231	19,375	71,692	116,497	105,777	92,033	89,527	83,191	82,063	77,323
	T14	S10	S20	S25	S35	S45	S55	H2	H12	H22	H32
	281,678	317,725	8,672	41,508	99,053	110,914	96,416	89,900	87,262	84,947	80,341

世帯数	S5	S15	S22	S30	S40	S50	S60	H7	H17	H27
	85,471	76,071	5,319	17,105	32,631	33,872	32,852	36,804	37,702	40,408
	T14	S10	S20	S25	S35	S45	S55	H2	H12	H22
	69,730	71,987	2,972	10,401	26,103	33,114	32,926	34,345	37,925	40,699

港区の人口動態（大阪市人口移動要因調査）

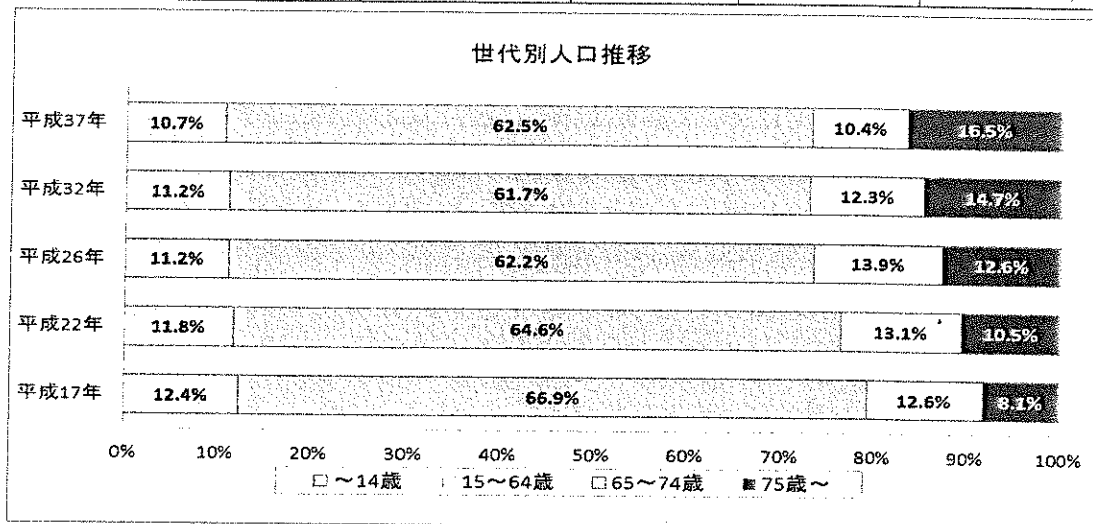


第2章 区の特性と課題

1 少子高齢化

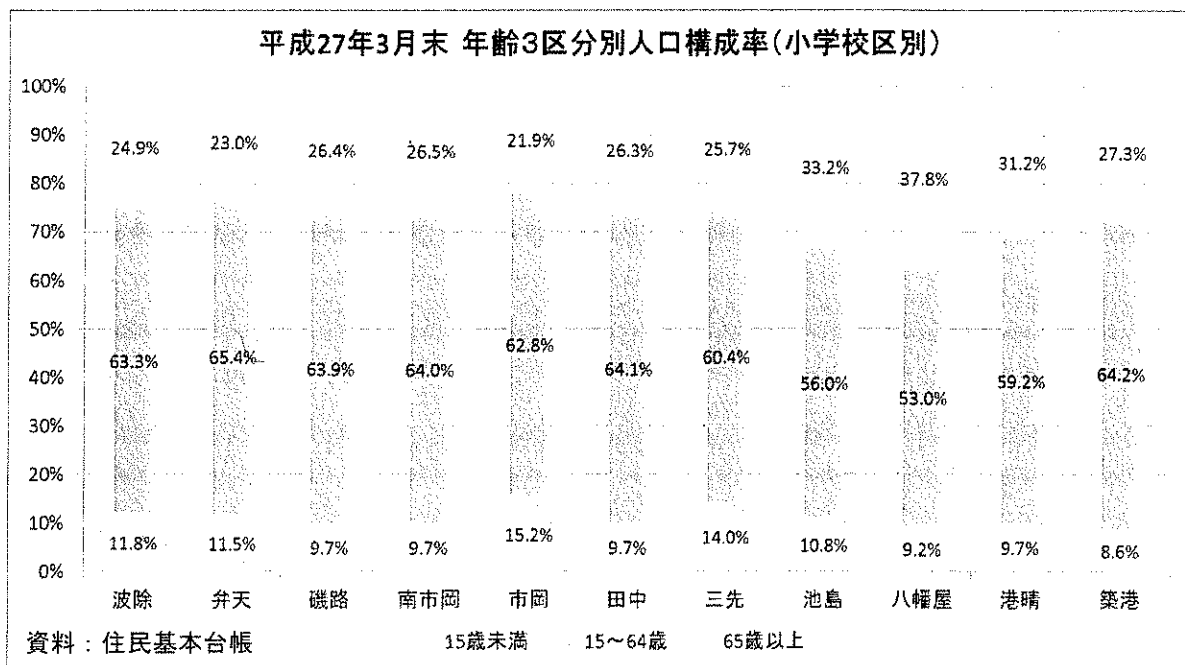
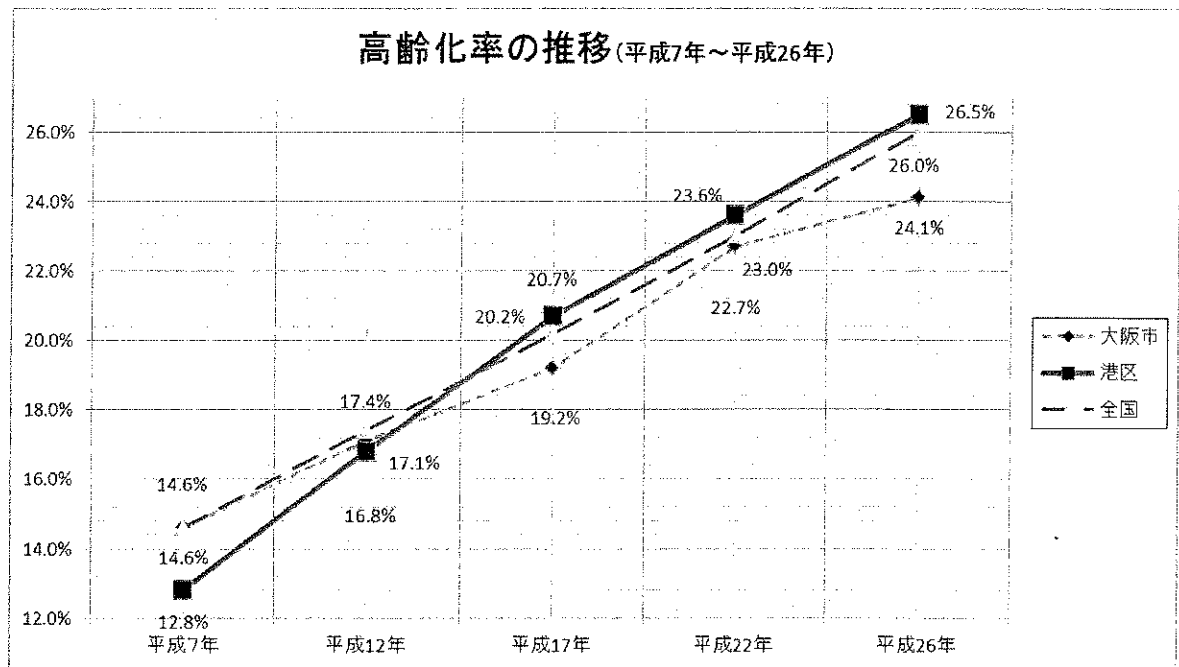
- ・ 平成27年の人口（国勢調査速報値）は82,063人で、市内24区の中では18番目となっています。平成37年の人口は8万人を下回るものと推計されており、今後、人口の減少が見込まれています。
- ・ 平成26年の高齢化率は26.5%（大阪市推計、平成27年国勢調査速報値では年齢別は公表されていない）で、大阪市全体と比べて高齢化が進んでおり、平成37年には26.9%となる見通しです。特に市営住宅の多い区内中央部では高齢化が大きく進み、すでに30%を大きく超えている地域もあります。住みなれた地域で元気な高齢者がいきいきと活動し、介護や支援を必要とする高齢者が安心して暮らすことのできる環境づくりが増々重要になっています。
- ・ 15歳未満の人口の比率は、少子化の進展により平成22年は11.8%、平成26年は11.2%でしたが、平成37年には10.7%と更に減少する見通しとなっています。子育て世代が魅力を感じるまちづくり、住んでみたいと選ばれるまちづくりを進めることが重要です。

		計	内訳（割合）		
			15歳未満	15～64歳	65歳以上 （高齢化率）
港 区	平成22年	84,947人	11.8%	64.6%	23.6%
	平成26年	81,810人	11.2%	62.2%	26.5%
	平成37年	77,323人	10.7%	62.5%	26.9%
大阪市	平成22年	2,665,314人	11.6%	65.7%	22.7%
	平成26年	2,686,246人	11.3%	63.8%	24.9%
	平成37年	2,553,167人	10.3%	61.5%	28.4%



資料：平成22年以前は総務省「国勢調査」、平成26年は大阪市10月1日推計数値

平成32年以降は国立社会保障・人口問題研究所平成25年3月推計資料

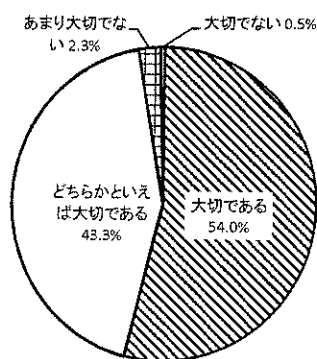


2 地域コミュニティ

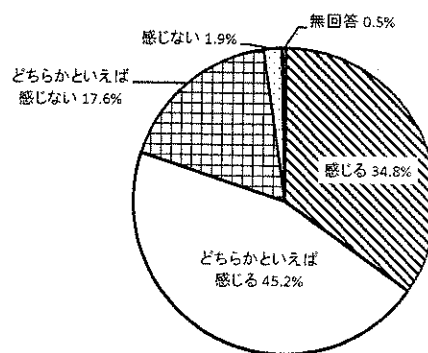
- これまで幾度も大型台風がもたらした高潮被害を克服し、戦後、世界でも類のない大規模な盛土方式の土地区画整理事業で復興した港区は、住民どうしのきずなや助け合いの気持ちが強く地域活動が活発なまちです。また、神社などの祭りも大変盛んで、世代を越えて楽しみながら、地域のコミュニティが形成されています。一人暮らしの高齢者や子どもを見守る活動などにも各地域で熱心に取り組まれています。
- 港区では、昭和57年に区内中学生の深刻な非行問題が生じ、地域団体やPTAを含め、多くの区民が危機感を持ったことにより、区を挙げて、地域ぐるみで子どもの健

全育成に取り組み、その活動は全市に広がりました。現在も中学校区単位や小学校区単位で「青少年育成推進会議」や「はぐくみネット」に取り組むなど、地域総がかりで青少年を育む活動が活発に行われています。

- ・ しかしながら、少子高齢化や核家族化が進むなかで、港区でも地域活動の担い手が高齢化するとともに、一部の担い手に役割が集中するなど、負担感が大きくなり、後継者不足につながっています。
- ・ また、新たな住民が増加し、地域活動への参加・参画を望まない人も増えるなど、コミュニティ意識の希薄化が懸念されています。
- ・ 平成24年度に全小学区に地域活動協議会が形成されて以降、地域団体間の協力・連携が深まるとともに、より幅広い住民の参画が広がりつつあり、それぞれの地域の実情にあった活動が展開されてきています。
- ・ 本格化する少子・高齢化社会の中で、区民一人ひとりが地域に愛着と関心を持ち、幅広い世代の人々が地域活動にかかわり、地域の課題を共有しながらその解決に取り組むことができる持続可能なまちづくりが今後より一層求められます。

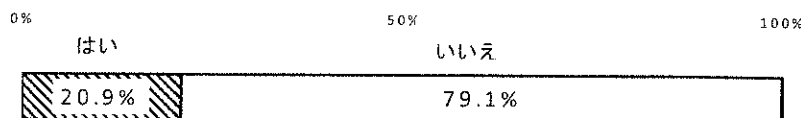


【住民同士のつながり・きづなの大切さ】



【地域の地域活動協議会が自律的に活動しているか】

【地域活動に参加している】

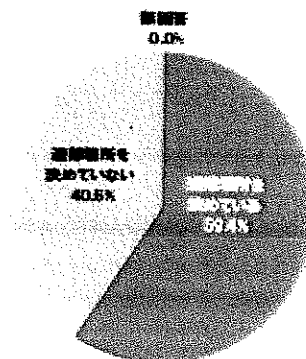


資料：平成27年度区民モニターアンケート

3 まちの安全・安心

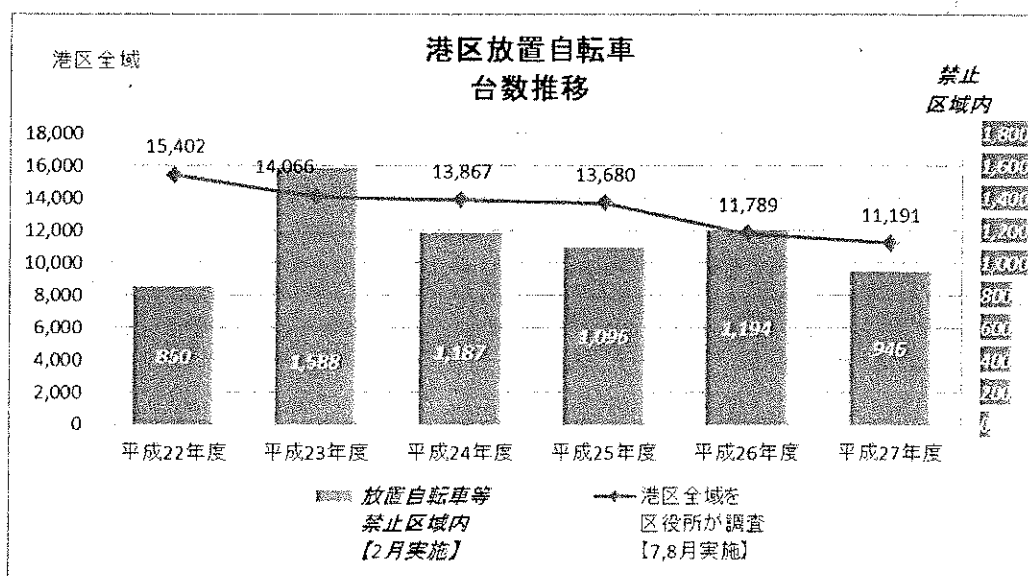
- ・ 平成23年3月の東日本大震災では津波による甚大な被害を受けました。港区も三方を海と川に囲まれており、津波や高潮の被害を受けやすい地勢にあります。津波を伴う海溝型地震への対策を進めてきましたが、なお一層の対策の強化が必要です。
- ・ 平成27年の区内における街頭犯罪発生件数

地震・津波が発生した時の避難場所について



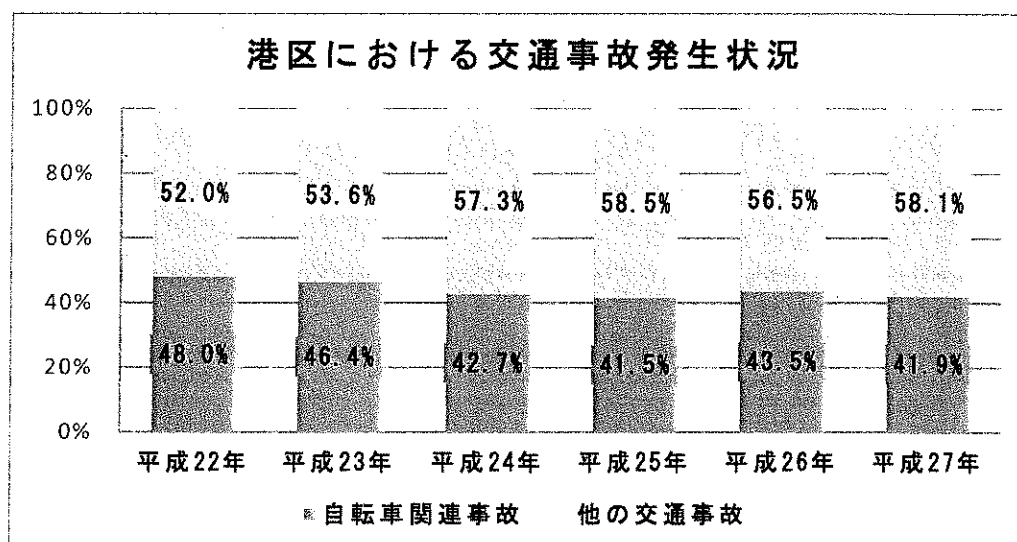
は市内24区で5番目に少ない568件ですが、市全体の街頭犯罪発生状況は減少傾向の中、港区はここ数年は横ばい状況にあることから、一層の取組強化を進める必要があります。

- 戦後、区域ほぼ全域にわたり土地区画整理が行われた港区は、街区がわかりやすく平坦で、みなと通、中央大通の幹線道路には自転車道が整備されるなど、自転車があれば大変便利に生活できるまちです。一方で、大阪府や大阪市と比べても自転車に関係する事故が多く発生するとともに、駅周辺を中心に放置自転車も数多く見られ、無施錠の自転車の盗難も多いことから自転車の適正利用を促進する必要があります。



資料：建設局調べ【2月実施】

港区役所調べ【7,8月実施】

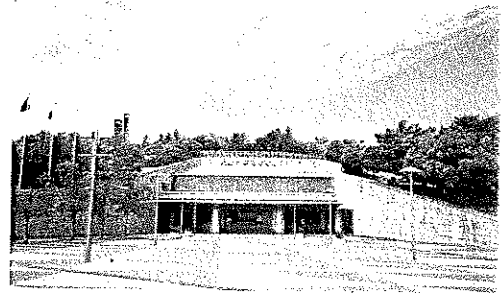


資料：大阪府警

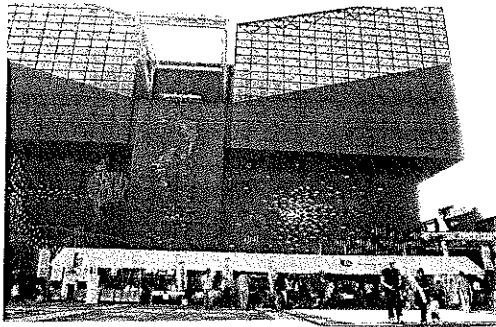
(参考：自転車関連事故 H27 府内平均 30.1%)

4. まちのにぎわい

- ・ 区内東部の弁天町は、鉄道や幹線道路の交通結節点であり、文化、商業機能等が集積しています。
- ・ 区内中央部には、区内で最も大きな八幡屋公園があり、公園内には国際レベルの競技が可能な大阪市中央体育館や大阪プールがあります。



大阪市中央体育館



海遊館

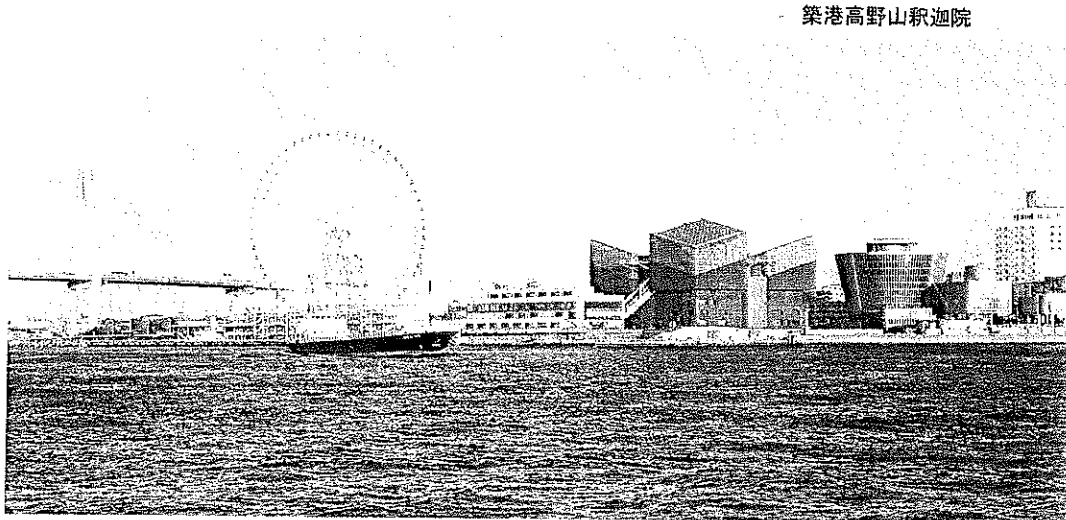
- ・ 区内西部の築港・天保山エリアは、世界最大級の水族館「海遊館」やマーケットプレイス、大観覧車などの近代的なアミューズメント施設のほか、日本一低い山「天保山」や弘法大師ゆかりの「高野山真言宗準別格本山」の築港高野山、住吉大社の「別院」の港住吉神社、大正時代の繁栄を伝える「築

港赤レンガ倉庫」、夕陽の美しい中央突堤・「ダイヤモンドポイント」、世界第一級のクルーズ客船が入港する天保山岸壁など、多彩で魅力ある歴史・文化・観光資源に富んでいます。

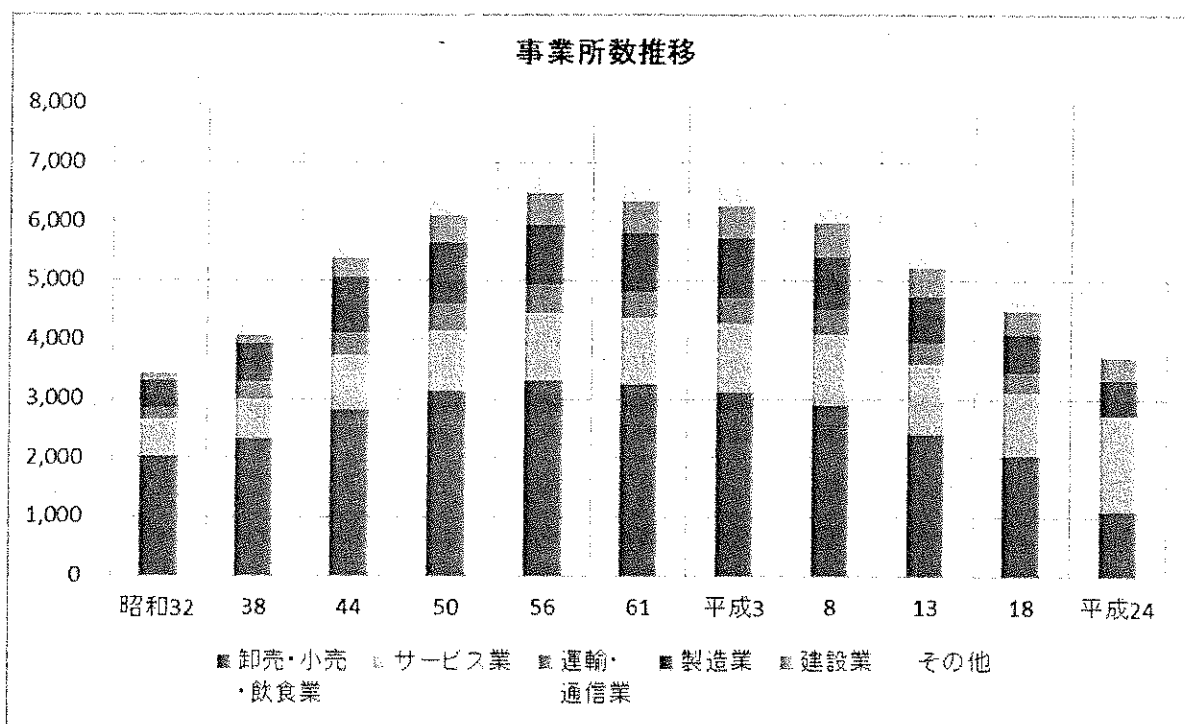
- ・ 区内には卸売・小売業の事業所や飲食店が多く立地していますが、その数は年々減少しています。一方で、区内の商店街では、地域と連携したにぎわいイベントなど、個性ある取組も行われています。
- ・ 多くのものづくり企業が区内にありましたが、後継者不足などが原因となり、近年は事業所数が減少傾向にあります。町工場が安心して操業できる環境確保が必要です。
- ・ 港区が持つ魅力ある資源を活かすなど、まちのにぎわいを生み出し、地域経済の活性化を図る必要があります。



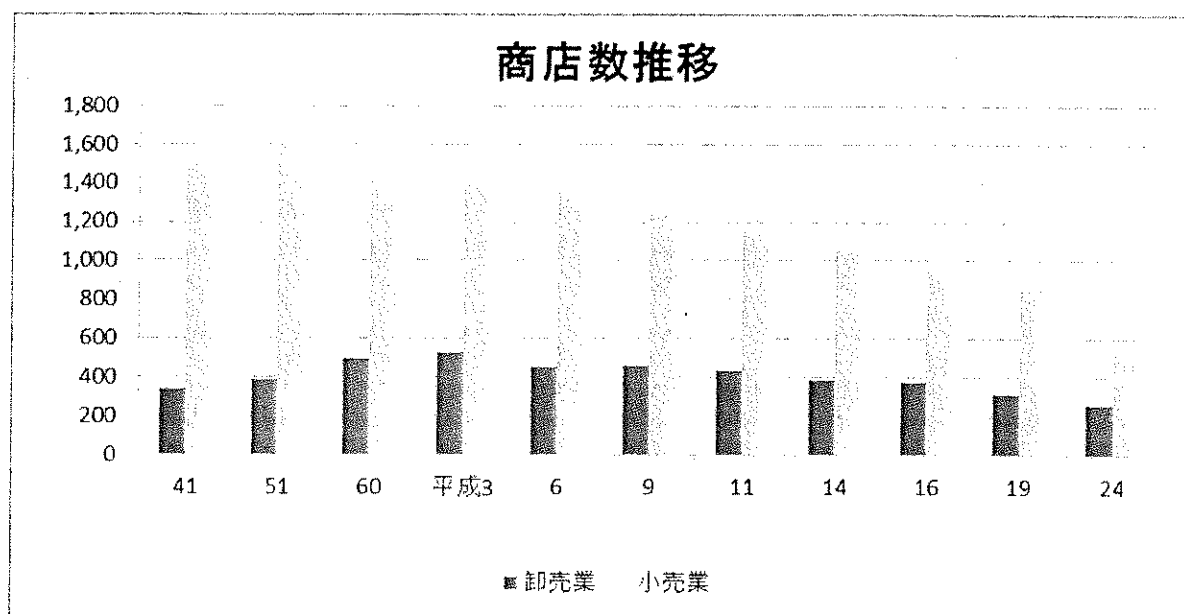
築港高野山釈迦院



海から見た港区ベイサイドの風景



資料：総務省「事業所統計調査」(S32～H3)、「事業所・企業統計調査」(H8～H18)、「経済センサス」(H24)



資料：経済省産業省「商業統計」(S41～H19)、「経済センサス」(H24)